

企画展

尾張藩と木曾山

—徳川義親のまなざし—

2023年11月11日(土)

〜12月15日(金)



展覧会概要

尾張藩は徳川家康から豊かな山林資源を有する木曾山を与えられ、江戸時代を通じてその自然を守りながら管理・運営を続けていました。尾張徳川家 19 代当主である徳川義親は尾張藩にとって重要な木曾山の研究を志し、大正 12 年（1923）には、徳川美術館に先駆けて、徳川林政史研究室（のちの徳川林政史研究所）を開設しました。その研究は現在も受け継がれ、今年で開設 100 周年を迎えます。本展では、江戸時代から近代に至る尾張徳川家と木曾山とのかかわりに注目します。当主が手懸けた木曾山・尾張藩研究をたどるとともに、戦前の蓬左文庫（東京）と林政史研究所との意外な結びつきもひもときます。

展覧会基本情報

◆展覧会名	徳川林政史研究所開設 100 周年記念企画展 尾張藩と木曾山—徳川義親のまなざし—
◆会場	名古屋市蓬左文庫展示室
◆会期	2023 年 11 月 11 日(土) ~ 12 月 15 日(金)
◆開館時間	午前 10 時~午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
◆休館日	月曜日 ※年末年始休館日：2023 年 12 月 16 日(土) ~ 2024 年 1 月 3 日(水)
◆観覧料	一般 1,600 円 高・大生 800 円 小・中生 500 円 ※ 20 名様以上の団体は一般 1,400 円 高大生 700 円 小中生 400 円 ※ 毎週土曜日は高校生以下無料
◆主催	徳川美術館・徳川林政史研究所・名古屋市蓬左文庫・中日新聞社・日本経済新聞社
◆協力	名古屋市交通局

プレス内覧会

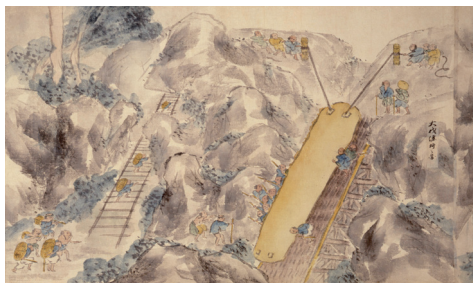
2023 年 11 月 10 日(金) 午後 1 時 30 分~ 2 時 50 分（午後 1 時 15 分受付開始）

会場：徳川美術館 講堂

内容：展覧会担当学芸員による概要解説の後、自由取材

第1章 江戸時代の木曾山

尾張家初代義直は、元和元年（1615）に父・家康から、優良ヒノキをはじめとする豊かな山林資源を有する木曾山を与えられた。戦国時代末期から江戸時代初期にかけての、城下町の建設や道路整備に伴う未曾有の建築ラッシュによって過剰な山林伐採が行われ、木曾山もその例に漏れず山林の荒廃が進んでいた。この状況を目の当たりにした尾張藩は、寛文5年（1665）、藩直轄の上松材木役所を設置して材木支配権を集中させたり、優良な山林資源を持つ山を留山として樹木の伐採を禁止したりするなど、木曾山の管理を徹底した。江戸時代を通じて、尾張藩は木曾山の管理・運営を行い、豊かな山林資源の維持に努めた。



【画像1】
木曾山材木伐出之図（部分）

大正14年（1925） 原本：江戸時代 天保9年（1838） 個人蔵

江戸城西の丸再建にあたり、裏木曾の出小路山（岐阜県中津川市）から材木を伐り出し、錦織綱場（岐阜県八百津町）まで木曾川に流して運搬する様子を描いている。

江戸幕府へ伐り出しの報告のために製作された絵巻の写しで、伐り出し・製材・運搬などの様子が順を追って描かれる。



【画像2】出小路本谷出水後木曾川渡入迄夜中働之図
江戸時代 18世紀 徳川林政史研究所蔵

出小路山（岐阜県中津川市）から伐り出した材木を、木曾川に流して運搬している場面である。働く人々が松明を灯していることから、夜中の作業であることもわかる。貼紙には「御急キ付（おいそぎにつき）夜中働之所」と書かれており、江戸城西の丸再建用の材木を集めることが急務であり、人々が夜通し働いていたことが伝わってくる。



第2章 義親の木曾山研究

「木曾山がヒノキの美林を維持しながら、明治を迎えたのはなぜか。」尾張家19代義親はこうした疑問を抱いたことを契機に、尾張藩における木曾山の維持・管理の歴史を本格的に追究しようと志した。義親は研究のために古文書の探索・調査や実地調査を積極的に行い、江戸時代に村役人を務めていた木曾地域の家々などに伝わる地方文書から江戸時代の歴史を解明しようと試みた。当時、古代・中世の国家史が研究の中心だった歴史学界には受け入れられなかったが、義親の研究手法は、戦後の日本近世史研究の先駆けだった。尾張家の当主・義親は、江戸時代の尾張藩とは切り離せない木曾山の歴史を深化させることを自身に課された責務と捉えていたのである。



【画像3】古文書を読む義親
昭和10年 雑誌『キング』撮影 徳川林政史研究所蔵

古文書を机に広げ、メモを取りながら調査する義親の様子を撮影した1枚である。大日本雄弁会講談社刊行の雑誌『キング』掲載用に撮影された。写真の中の古文書に「一、人足五人」の文字が読み取れることから、この時、義親は江戸時代の帳簿から経済史的な側面を解き明かすための下調べをしていたのかも

第3章 東京の蓬左文庫開設

昭和5年（1930）、尾張家19代義親は財団法人尾張徳川黎明会（現・公益財団法人徳川黎明会）を設立し、尾張家伝来の美術品や蔵書を寄附した。尾張家伝来の蔵書を保存・公開するための施設として、昭和10年には、東京府高田町（東京都豊島区目白）に蓬左文庫が開設される。この時、徳川林政史研究室は、蓬左文庫附属歴史研究室という形で継承されることとなった。研究室の立ち位置を変えたものの、義親の研究指導のもと、引き続き林政史研究に従事すること、尾張藩史の総合的研究を進めることを目的として活動が進められた。

第3章では、昭和10年の蓬左文庫開館・披露蔵書展覧会で出陳された史料の一部を紹介する。

展覧会関連イベント

■土曜講座「木曾林政史学事始め—徳川義親のまなざし—」

講師：徳川林政史研究所 研究員 藤田英昭

日時：2023年11月25日（土）午後1時30分～3時（午後1時開場）

会場：徳川美術館講堂

定員：80名（事前申込制ですすでに満席／当日空席がある場合のみ受講可）

参加費：800円（入館料別途要）

広報画像ならびに視聴者・読者プレゼント提供

特別展「尾張藩と木曾山—徳川義親のまなざし—」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。画像を1点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧会の御招待チケット（非売品）を、1媒体5組10名様にご提供いたします。



<下記内容をメールまたは電話、ファックスにてお知らせください 利用期間：～2023年12月15日（日）まで>

希望画像番号

使用媒体

放送日・発売日

プレゼント提供 希望する 希望しない

貴社名

ご担当者様

データ送付先アドレス

ご連絡先電話番号

[ご利用にあたっての注意事項]

- ・画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- ・部分アップのトリミングは可能ですが、色変更等の加工はご遠慮ください。
- ・二次利用不可です。
- ・画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- ・内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ・ご掲載誌、DVD等を1部「徳川美術館 管理部 広報宛」でお送りください。



徳川美術館

The Tokugawa Art Museum

〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017

TEL：052-935-6262（10時～17時受付）

052-935-8222（営業時間外受付）

FAX：052-935-6261

担当：吉川・竹内

public-info@tokugawa.or.jp